

藤沢ゆかりの人物を語る(3)

北条 時政

坂東 彌十郎

(歌舞伎俳優)



【歌舞伎俳優の家に生まれて】

宇都学芸員…彌十郎さんは祖父が十三代目守田勘弥さん、父が坂東好太郎さんという歌舞伎俳優の家にお生まれになりました。ご自身も歌舞伎俳優になろうと思ったきっかけは何だったのででしょうか。

坂東彌十郎…私が幼稚園くらいの頃、父は映画の仕事を中心にしていて30年ほど歌舞伎から離れていましたが、父の出演する映像作品もよく見ていたので、物心つく頃には演じることに興味があったのかもしれないですね。そして父が歌舞伎の世界に戻ったのが、私が小学校に入学したくらいの時期。父の姿を見てその頃には自然と歌舞伎俳優になりたいと思っていました。

宇都…17歳で初舞台を踏んでいらっしゃいますが、その時のお気持ちはいかがでしょうか。

彌十郎…小学生のころから身長が高く、子役として出演する機会がなかなかありませんでした。ですから17歳で初舞台を踏んだ時はようやくスタートに立てたと感じ嬉しかったです。思いのほか緊張せず、楽しかったということは覚えていません。それから今まで約50年間歌舞伎が好きという想いは変わりません。

【北条時政を演じて】

宇都…大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では北条時政役を演じていらっしゃいますが、彌十郎さんにとって北条時政はどんな人物のイメージがありましたでしょうか。また演じる前と演じた後で時政に対する印

象は変わりましたか。

彌十郎：これまでの北条時政という人物は、史実を見ても少しダークなイメージがあると思いますし、歌舞伎でも悪役として描かれることが多い人物です。ですが今回時政を演じるにあたり今までのイメージはすべて忘れて演じようと思いました。脚本の三谷幸喜さんからは「長屋の親父みたい」というお話をいただき、自分なりに伊豆の田舎の人のいいおじさんをイメージして演じました。

物語が進むにつれて段々と政で好き勝手するようになり、ダークに見えるようになっていきますが、時政という人物の根本は変わらないと思っています。とても人間味があつてどこか憎めない、伊豆が大好きな愛すべき親父なんだなと思います。

宇都：鎌倉の大河ドラマ館にも行かれたと聞きました。その他にも北条ゆかりの地などは行かれたりしましたか。

彌十郎：出演が決まつてすぐに時政のお墓がある願成就院（静岡県伊豆の国市）に行きました。その後ロケの時にも市役所の方に案内していただきました。3回目は伊豆の国市の大河ドラマ館に行った帰りに訪れました。

【藤沢市と江の島】

宇都：藤沢市や江の島にはいらっしやったことはありませんか。

彌十郎：藤沢市は歌舞伎の巡業でうかがったことがあります。鎌倉市に



月岡芳年「芳年武者无類 遠江守北条時政」



歌川国貞（三代豊国）「題名不詳（弁才天と北条時政）」

は何度か訪れているのですが江の島には行ったことが無いので、いつか行きたいですね。北条家の家紋が三つ鱗になった理由が江の島にあると聞いてとても興味があります。

宇都：藤沢市についてはどのようなイメージをお持ちでしょうか。

彌十郎：海というイメージが強いですね。私は海や山といった自然が好きなので、海岸沿いに江の島が見える国道134号あたりの雰囲気が好きですね。

【坂東彌十郎と欧州】

宇都：彌十郎さんはヨーロッパ、特にスイスがお好きで20回以上訪れているとうかがいました。スイスがお好きな理由はなんでしょうか。

彌十郎：元々海がすごく好きでしたが、空が好きだということに気が付きました。海は水平線まで空が広がっているので好きですね。上ではなく、前に空があるような感覚です。それと同じで、山も自分の目の前に空があつて、朝日や夕日、星空が目の前に広がっている。特にスイスの自然が好きで、スイスの山の景色を見ていると心が落ち着くんです。自分がとてもちっぽけに感じるんですよ。2019年までは毎年スイスに行っていたのですが、それ以来行けていないのでまた行きたいですね。

宇都：最後の質問になりますが、役者をされていること、役柄を演じる上で大切にされていることはありますか。

彌十郎：演じるというより、自分と違う一人の人間になるという感覚を大切にしています。その人の人生を生きたことができるのは楽しいですね。

宇都：本日はありがとうございました。

彌十郎：ありがとうございました。

語り手 坂東彌十郎

聞き手 宇都洋平（藤沢市郷土歴史課 学芸員）

編集 串田 匠（藤沢市郷土歴史課 職員）

協力 川口俊介（NHK）

NHK

（株）松竹エンタテインメント